

vol. 2341

【発行】大分県高等学校教職員組合教宣部 大分市大字下郡496-38 大分県教育会館
TEL / (097) 556-2838 FAX / (097) 556-8998 MAIL / ohtwu@view.ocn.ne.jp

大分県高教組情報

【発行者】大野 真二 【印刷】(株)佐伯コミュニケーションズ 【売価】30円(組合員の購読料は組合費の中に入れて徴収しています)



今号の掲載内容 (掲載順)

- 日々向き合う子どもたちの姿をスタートに、つどい、語ろう、明日の教育を！
第73次教育研究大分県集会
- 第505回中央委員会

日々向き合う子どもたちの姿をスタートに、つどい、語ろう、明日の教育を！

第73次教育研究大分県集会

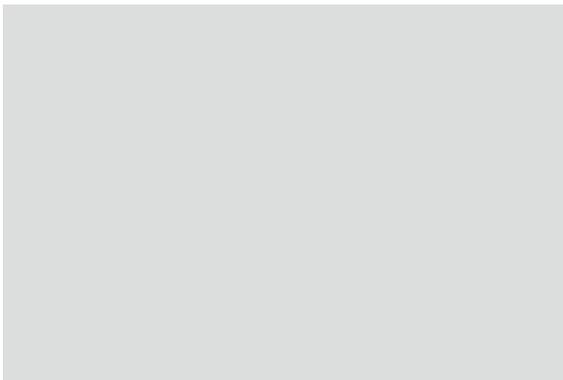
全体会	とき：10月25日(土)	ところ：教育会館 多目的ホール
分科会	とき：10月26日(日)	ところ：教育会館 各研修室

全体会

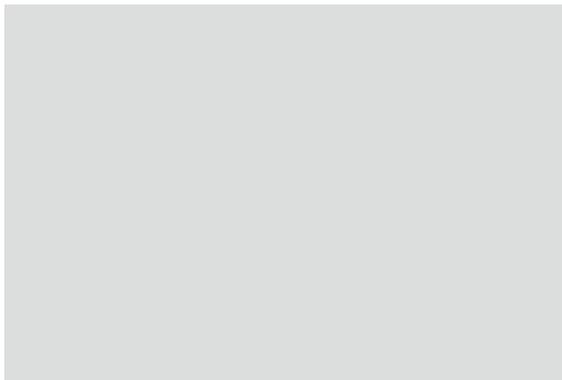
今年度の県教研全体会は教育会館多目的ホールを会場として、県教組、高教組の組合員の参加で盛大に開催されました。中村涼香さん(NPO法人ボータレス ファウンデーション理事)による「Z世代的平和活動論」と題した講演が行われました。「被ばく100年の新しい平和活動をつくる」との思いで、「原爆資料館が日本中、世界中に行けば活動がより広がるのではないか」との仮説を立て、昨年「あたらしいげんぱく展」を企画・実現した体験談などを話されました。中村さんの未来志向のお話に、参加者は時間を忘れ、聞き入っていました。

講師：中村涼香さん

その後、第28代大分県高校生平和大使の内川桃花さん(東九州龍谷高校)と、ともに活動している仲間も参加し、「高校生1万人署名」についての説明や活動報告をしました。多くの方が、「核も戦争もない平和な未来を創ろう！」という趣旨に賛同し、署名をしてくださいました。



高校生の活動報告の様子



内川さんはジュネーブ滞在の3日間、国連欧州本部でのスピーチなど、多くの行事に参加しました。

教科・問題別分科会

第10分科会		職業教育	
	レポートタイトル	リポーター名	分会名
1	文部科学省 内藤敬調査官の講演フレームワークに基づく中津東高校の教育的考察	佐藤新太郎	中津東
2	大分県中津東高等学校におけるカリキュラムマネジメントとアクティブラーニングの統合環境プロトタイプの構築	佐藤新太郎	中津東
3	商業科における防災教育のとりくみ ～「生きる知恵としての学び」につなげる商業科目での防災教育のとりくみ～	藤井 鉄士	日出総合

「防災とAIから考えるこれからの職業教育について」

古田 里枝 (大分商業)

今回の学習会では、まず参加者が自己紹介を行い、各校のとりくみや近況について情報交換をしました。続いて、日出総合高等学校の藤井さんが「商業教育における防災教育のとりくみについて」発表してくださいました。熊本県への研修旅行のお話や、大分県防災教育モデル実践事業の成果について紹介がありました。質疑応答では、防災教育を授業にどのように組み込むかなど、活発な意見交換が行われました。次に、中津東高等学校の佐藤さんが「カリキュラム・マネジメントとアクティブラーニングの統合環境プロトタイプの構築」について発表してくださいました。サーベイ・フィードバック理論をもとに、「JIS-BASICエミュレーター」を授業に導入した成果についてお話をしてくださり、AIの教育的活用について議論が深まりました。最後には、同じく中津東高等学校の佐藤さんより、文部科学省の内藤調査官の講演を踏まえ、AIを教育現場でどう活かすかをテーマにした発表が行われました。

互いの実践を参考にしながら、新たな教育の在り方についてのヒントを得る、温かく活発な学びの場となりました。

第14分科会		障害児教育	
	レポートタイトル	リポーター名	分会名
1	役割を通して考えたこと	佐藤 立也	宇佐支援
2	カリキュラム・マネジメントが拓く子どもと教職員のウェル・ビーイング	濱田眞一郎	由布支援
3	大分県の高校通級の現状と今後の展望	土谷 充章	爽風館定時制
4	「定員内不合格」について考えたこと～障害がある生徒が高校受験をするとき 生徒が生き生きできる進路選択を考える～	堀田 文雄	大分支援
5	もう学校専攻科におけるオンライン授業実践について	末永多香光	もう

「障がいのある生徒の進路保障における課題等」

土谷 まり子 (ろう)

今回は5本のレポートが提出され、そのうち1本は紙面での発表であったため4本のレポートについて意見交換が行われました。1本目は爽風館高校通信制の土谷充章さんから、高校における通級による指導の現状について報告がありました。爽風館高校が県内高校の通級による指導を担っており、以前は発達障害の生徒が多かったが、現在は情緒障害などメンタル面で困りのある生徒が受講している。需要があるが、少ない人数で運営する大変さがあることが分かりました。

2本目は、宇佐支援学校の佐藤立也さんから進路指導主任の立場で知的障害のある生徒の就職の指導の課題について発表がありました。現場実習で受ける企業の評価が非常に大切に成長につながるが、現場実習を複数回行い過ぎると生徒の学習する時間が失われるというジレンマがあることについて紹介がありました。一般就労できたとしてもほぼ非正規雇用で、企業が単純作業しかできないと決めつけてしまっている例もあり、課題が多い点があげられました。

3本目は、大分支援学校の堀田文雄さんより、高校の定員内不合格の現状と支援学校の生徒が高校受験を行った事例について紹介がありました。インクルーシブ教育が理想とされているが、現実問題で高校に入学した際に、果たして合理的配慮が受けられ本人のよりよい学びの場となるのかこれからさらに議論が必要だと思われま

す。

4本目は、由布支援学校の濱田眞一郎さんから、「カリキュラム・マネジメントによって生徒も先生もウェル・ビーイング」という壮大なテーマでの実践発表でした。支援学校の授業の「教科化」の流れを、トップダウンの改革ではなく民主的なプロセスで質の高い教育を行う仕組みを考えられており、「キャリア発達の見取り図」や「通知表」など多くの学校が参考にできる取り組みで素晴らしいという声が複数ありました。

第18分科会		平和教育	
	レポートタイトル	リポーター名	分会名
1	(タイトルなし)	福田晃一郎	日田定時制
2	2025年の平和教育活動を考える	山田 憲昭	日田三隈
3	高校生平和大使、高校生一万人署名活動～戦争加害の面を学ぶ～	仁木 史絵	三重総合

「平和教育をつなぐには」

大力 央弓 (日田林工)

みなさんは8月6日、9日には学校へ登校し平和学習を受けていましたか？今振り返ると、小中学生の頃は間違いなく登校していたと思うのですが。それ以降の記憶はありません。ですが、きっと日常的に平和について考えたり教わったりしたことがあったと思います。

一本目のリポーターである三隈高校分会の山田さんは、日々の授業内容と関連付けて戦争や平和について生徒へ語りかけていました。また、平和について授業で語り掛けてくれる仲間を作ろうと、同僚の先生や採用年数の若い先生へのアドバイスなどを行っていました。それもすべて生徒という、これからの社会を担う者たちが平和

な世の中で生きてくため。学校という組織の中で、同じ志を持つものを増やすべく孤軍奮闘されている様子が伝わりました。

二本目のリポーターである日田高校定時制分会の福田さんは、ギターの弾き語りと詩の朗読で分科会参加者を一気に生徒の気持ちにさせてくれました。日々授業前に生徒に平和を考えさせる語り口は素晴らしく、こんな話題から話せばよいのか！という発見がたくさんありました。

子どもたちが平和な世の中を生きていくには、戦争の悲惨さや平和の尊さについて伝える存在が必要です。その場での反応はなくとも、これから生きていく中で腑に落ちたり響いたりすることがきっとあるはずです。私たち教職員は、日々の言動や態度、授業、生徒との対話の中で平和について伝えていく使命があると、改めて考えさせられた分科会でした。

第19分科会		情報化社会と教育・文化活動	
	レポートタイトル	リポーター名	分会名
1	図書館の美化について考える―清掃時間の工夫―	晝間 まみ	杵築
2	蔵書データの確認も含めた蔵書点検の実践	深藏 剛	別府翔青
3	「リアルに即した(?)除籍作業」	阿野 卓也	大分豊府
4	学校図書館からの支援～「デジタル資源カード」を設置してみた～	犬塚 哲也	大分舞鶴
5	図書委員会活動について	伊勢嶋美香	竹田
6	「読書活動への支援について」	小野 陽子	別府鶴見丘
7	生成AIで業務効率UP!～事例発表②こんな使い方もあった!～	田代 修三	大分雄城台

「図書館運営に関する情報交換及び研究会」

阿野 卓也 (大分豊府)

第19分科会は発表者を限定せず、参加者が各々で日ごろの図書館運営で工夫しているとりくみをワンペーパーのレポート方式で発表する形式となりました。館内の美化、図書委員会活動、蔵書管理などの観点で情報を持ち寄り、質疑応答も交えながら意見交換を行い、業務の質を均一化する目的で制定されたスタッフマニュアルの扱いにも話は及びました。その内容で順守すべき点、改良が必要な点にも言及しました。新任で参加された方々もいらっしやだったので、仕事を進めていく上での不安や疑問を知ることができる時間となった点でも非常に有意義な交流となったと思います。

第3分科会		社会科教育	
	レポートタイトル	リポーター名	分会名
1	歴史総合と世界史探究はどう違うか？	田尻 洋佑	中津南
2	歴史修正の流れを学校図書館から考える	深藏 剛	別府翔青
3	「地域国家」に着目した世界史探究「大交易・大交流の時代」の授業構想—九歴協記念講演「世界史の中の戦国大名」教材化の試み—	西 裕一郎	大分鶴崎
4	2025年の改訂版の教科書について	山田 憲昭	日田三隈

「大きく変化する時代・社会と社会科教育」

藤原 寛理 (大分雄城台)

社会科教育分科会では、近年大きく変化する社会情勢を反映し、地理歴史の総合・探究科目の授業のあり方や教科書について、またChatGPTなどの新たなツールの扱い方やその注意点について、計4本ものレポート発表がなされ、活発な質問や議論が交わされました。

田尻洋佑さん(中津南分会)が、「歴史総合」と「世界史探究」の「範囲被り」について、具体的に授業でどのように扱い分けるのかについて、学習指導要領を読み解きながら、実際に使用されている授業プリントなどを示しながら解説してくれました。深藏剛さん(別府翔青分会)のレポートからは、昨今SNSを中心に盛んに見られるようになった「歴史修正主義」的な傾向、またChatGPTを利用した際に実際には存在しない文献を提示されるといった注意点について学ぶことができ、そうした時代の学校図書館のあり方について改めて考えさせられました。西裕一郎さん(大分鶴崎分会)からは、今年度の地歴研究大会の内容を踏まえた大友氏の治めた「地域国家」としての大分の歴史やその授業実践への構想を、山田憲昭さん(日田三隈分会)からは近年の教科書出版会社の統廃合による教科書への影響についてそれぞれ発表があり、新たな社会科教育実践のあり方について見識を広め、深めることができました。

第25分科会		定時制・通信制・分校の教育	
	レポートタイトル	リポーター名	分会名
1	「Tさんの進路保障 ～困りを抱えた生徒の就学問題と課題～」	佐藤 洋一	中津東定
2	(タイトルなし)	福田晃一郎	日田定
3	さあ 定時制のこころ	横山新太郎	日田定

「もっと 定時制のこころ」

田北 俊郎 (日田)

参加者7人、レポート発表者は横山さん、佐藤さん、福田さんの3人。

横山さんの発表で印象に残った言葉。定時制は生き方だ、それは人とは違う生き方だ。やむをえなかったかも

しれないが定時制に来た。生徒を学校に合わせるのではなく、学校を生徒に合わせてよう。生きることは楽しいことだ。鍾乳洞の石筈が何万年も時間をかけて育つように、4年間じっくり育っていくもの。バイブルにしている本の紹介、「生きていくための短歌」、「みんなの学校」読んでみたい。私の教師としての基本的なスタンスは定時制の時に身についたものと気づいた。

佐藤さんの、グレーゾーンの生徒の進路保障についてのお話、卒業後の生き方を含めたコーディネートを教員全員が協力して行う姿があった。障害がある生徒にとって、生きる力とは何か。困ったときに助けを求められること。全日制にもグレーゾーンの子は多い。どこまで支援が行き届いているか。

福田さん教員生活あと1年、30年近く定時制に勤務する生き証人。定時制の教員になることが夢だった。今後の定時制の行く末はどうなるか、20代30代の若手がこの会に来てほしい。進学校出身の若手教員には無縁の世界だが、教育の本質はここにある。東京では、全日勤務の次は必ず離島か定時制に行くそう。そこでやめる若者も多いらしい、)

効率や成果を求めがちな教育現場において、対話や人間理解を大切にすることを忘れてはならない。なにか大事なものが抜けている。経験した人にしかわからない心の交流があり、久しぶりにあたたかい時間を過ごせた。受験勉強真ただ中の3年クラス担任としてまた明日から頑張ろうと思えた。

第1分科会	日本語教育
--------------	--------------

	レポートタイトル	リポーター名	分会名
1	「Tさんの進路保障 ～困りを抱えた生徒の就学問題と課題～」	高橋 貴子	別府翔青
2	書こう！文章修行（その17）おまけ④ 20、30代の若き先生へ（いらん世話）	福田晃一郎	日田定

第11分科会	自治的諸活動と生活指導
---------------	--------------------

	レポートタイトル	リポーター名	分会名
1	RAMPSがダメな理由あれこれ	佐藤 伸介	佐伯鶴城

第21分科会	カリキュラムづくりと評価
---------------	---------------------

	レポートタイトル	リポーター名	分会名
1	カリキュラム・マネジメントが拓く子どもと教職員のウェル・ビーイング	濱田真一郎	由布支援

「大切な『対話』」

河野 恵美子（別府鶴見丘）

3つの分科会の合同で行われ、リポーター、運営委員、一般参加者合わせて8人の、活発な質疑や意見交換が行われました。まずは福田晃一郎さん（日田定）の、沢村栄治（杵築市出身）と堀悌吉に贈った歌の弾き語り

ありました。次の高橋貴子さん（別府翔青）のレポートから、今井むつみ氏の「たつじんテスト」や認知トレーニングの効果などは興味深いという意見と同時に、特性の強弱として現れる子どもの個性を傷つける方向性に至る危険も共有されました。佐藤伸介さん（佐伯鶴城）は「RAMPSがダメな理由あれこれ」をレポートし、参加者からも現場目線の「百害」や「一利」が飛び交いました。最後に、濱田眞一郎さん（由布支援）から特支の「各教科等を合わせた指導」の見直しに端を発する「改革」が報告されました。それぞれのレポートから、よりよい教育はトップの号令だけでは成し得ず、教員同士／教員と生徒の対話とその場の設定が鍵になると強く感じました。

第4分科会		数学教育	
	レポートタイトル	リポーター名	分会名
1	正接定理を知っていますか+正弦定理の意味付けと証明についてと YouTubeと数学活動（すうかつ）の2本立て	沼田 庄司	中津東定

第6分科会		芸術教育	
	レポートタイトル	リポーター名	分会名
1	音のデザインを取り入れた授業 効率的な学習のための授業改善	稲田 雅史	三重総合

「学び続けるための力を育てるための授業実践」

林 直人（大分支援）

数学教育では、最初に中津東定の沼田さんから、普段視聴されているYouTubeの数学関連コンテンツで取り上げられた定理の紹介がありました。近年様々な動画が日々更新され、沼田さん自身は「数学＝面白い」という純粋な理由で日々数学活動（数活）を実践されていますが、実際の教育現場では、生徒は単位取得や進学のためにとりくむことが多く、「数学＝苦しい」が前提となっている今のカリキュラムについての問題提起がなされました。芸術教育では、三重総合の稲田さんから、音のデザインを取り入れた授業実践の報告がありました。普段の授業では、生徒が音楽を表現する言葉は「明るい」「元気」など抽象的なものが多く、音楽のどの特徴を捉えているかを確認するための共通言語が必要であり、授業を通して改善が見られた趣旨の内容でした。最後に、どのように生徒に教科の面白さを伝えるかについて参加者から様々な意見が出され、多くのヒントを得ることができる充実した時間となりました。

各分科会から第75次全国教研に、以下の3本のレポートが推薦され、執行委員会の協議により3本とも全国教研でレポート報告することが決定しました。

分科会名	リポーター（分会名）	レポートタイトル
職業教育	佐藤新太郎（中津東）	大分県中津東高等学校におけるカリキュラムマネジメントとアクティブラーニングの統合環境プロトタイプの構築
カリキュラムづくりと評価	濱田真一郎（由布支援）	カリキュラム・マネジメントが拓く子どもと教職員のウェル・ビーイング
芸術教育	稲田 雅史（三重総合）	音のデザインを取り入れた授業 効率的な学習のための授業改善

第505回中央委員会

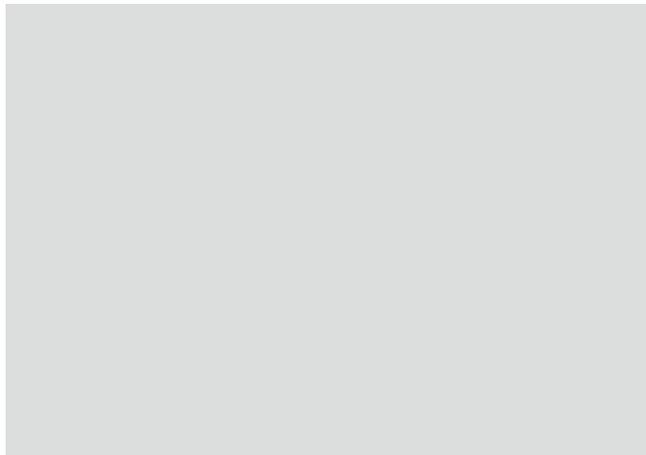
とき：12月13日（土） ところ：教育会館 201研修室

第505回中央委員会を開催し、定期大会以後のとりくみの総括とこれからの運動方針を協議しました。

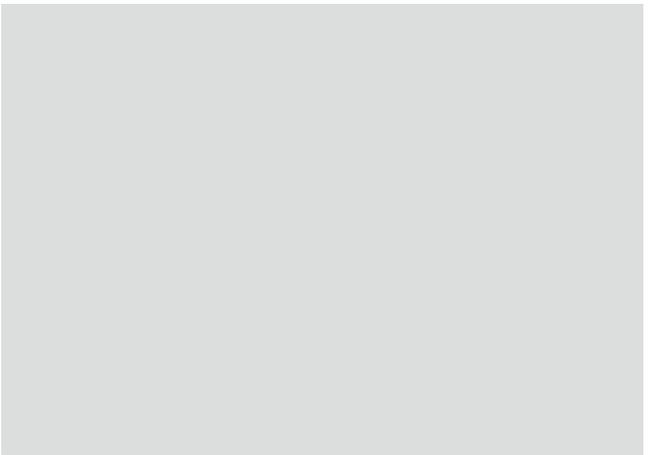
冒頭の執行委員長あいさつは、国内外の政治情勢から、反戦平和のとりくみの重要性が高まっていること、学校現場での超勤縮減を進めていくためのとりくみの強化の必要性、粘り強く組織強化・拡大にとりくむことの大切さ等を述べたものでした。

また、RAMPSを先行導入していた新潟県が、来年度から実施を取り止めることとなりました。大分県にもつなげていけるよう、声をあげ続けることが大切だと思います。

問題は山積していますが、私たちのとりくみの一つひとつを着実に進めていくことが、職場環境や教育環境の改善につながることを確認しました。



議長：山添智幸さん（新生支援分会）
（左から） 仁木史絵さん（三重総合分会）



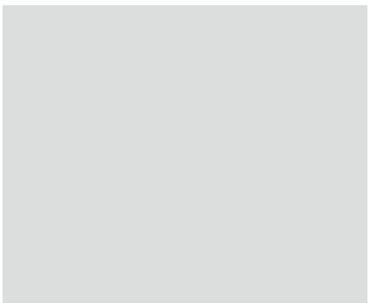
議事運営委員：佐々木正洋さん（臼杵分会）
（左から） 小川宏子さん（別府支援分会）
六田正文さん（情報科学分会）

■質疑■

[1] 教育文化活動のとりくみ

中津北：県教研に参加したいが、大会等が重なってしまう。日程変更等は考えているか。

本部返答：全国教研のエントリーを考えるとこれ以上時期を下げることはできない。26年度は現状から大きく変えることはできないが、今後検討する。



◇第4号議案 退職後、県立学校等に在籍していない者の組合員資格の回復について

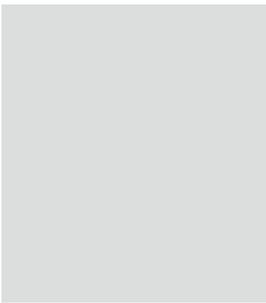
高田、豊府：組合費の納入金額や、回復期間は。本部返答：納入金額は勤務状況による。期間はとりあえず1年で考えている。



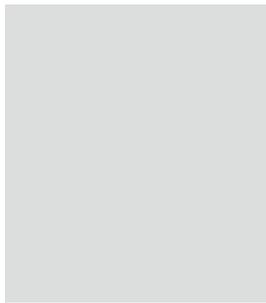
■意見・討論■

◇高校生平和大使について

宇佐支援：現在、例年の一人署名などに加え、コープおおいの「みんなで考える平和のつどい」に参加したり、佐賀関火災の義援金活動を行ったりしている。その中でいろいろな立場の人と協同することが力になっている。毎月活動しているので、ぜひ紹介して広めてほしい。「oita_peacemessengers」でインスタグラムもしているの、フォロー等よろしくをお願いします。

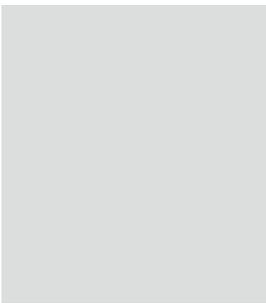


鶴城：日田とセットで実施している。時間割を組むのが大変で、集会等で時間がずれると大変だし、考査時間も合わせる必要がある。



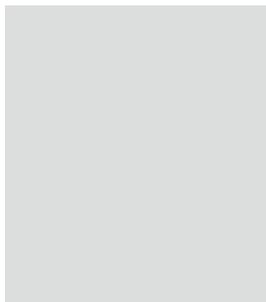
◇遠隔授業について

大分西：配信センターに配属された教員の肖像権について、YouTubeに写らざるをえないと思うが、写らなくてもできる仕事はあるのか。

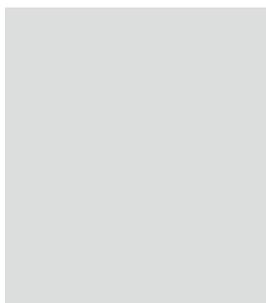


本部返答：定期大会でも同様の話を聞きましたが、今後確認します。

大工定：昨年度、不登校生徒に対する遠隔授業を実施した。規定がなかったので急遽作成した。負担は大きかったが、不登校は解消できた。

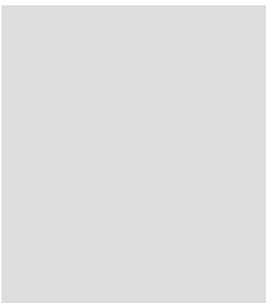


耶馬溪：中津南本校とつないでいる。数学・英語でよく会議が行われている。



高田：教育長が「大分方式」と言っている、進学特化のやり方について正してもらいたい。本来、遠隔授業は通信制にマッチしたものだと思う。他校の現状を聞いてみたい。

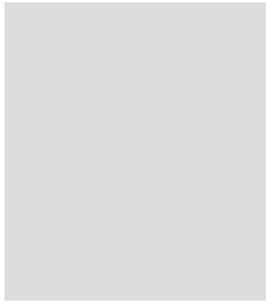
日田：遠隔の会議が多すぎる。2校セットでの実施が大変である。トップダウンなのに「学校の特色です」と言わなければならない状況がある。時間割が組めないかもしれない。配信センター側は共通テスト後の二次対策にからみたいようだが迷惑である。



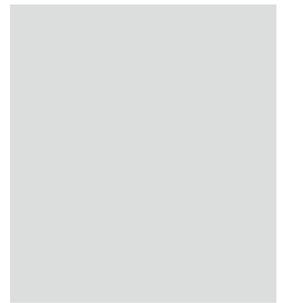
大分西：遠隔授業に対して高教組はどうしていくのか。本部返答：進学特化の形は否定していききたい。本来あるべき学習支援型は推していきたい。

◇現状の共有、およびその改善について

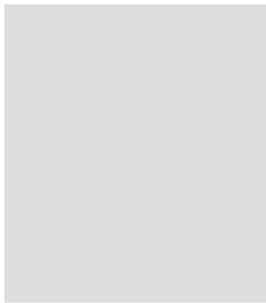
日出総合：今年の交渉で駐車場代が出るようになった。県議を交えての単組・専門部学習会や、各級交渉での積み上げの成果かと思う。やはり、まずは声を上げることが大事なことである。



日田定：不登校の子どもが多い現状の中、本校は入学定員が40人だが、定員を超えてしまうのではないかと危惧している。全日制から転籍者も多く、教員数が足りない。そもそも定員40人というのは見直さないといけない。

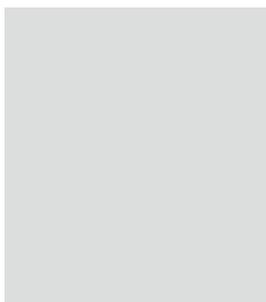


雄城台：不登校生徒にオンライン授業を行い、出席にしているが、人手・環境の不足により、現場としては大変厳しい状況である。ガイドラインの作成等、組合としての見解もほしい。



高田：転編入する生徒数は増える一方である。その生徒たちは「移ってよかった」とも言うが、「もとの学校で卒業したかった」とも言っている。入った学校で卒業できる環境づくりが大切である。

情報科学：教務主任会議でも「学習支援型」は進めてよいのではとなったが、現実には、内規の作成を含めて学校丸投げであり、現場は混乱している。



大分西：平和運動センターの「8の日運動」や、電話行動などに参加しているが、行ける人は減る一方である。とりくみを時代に合わせてアップデートするべきだと思う。現状の活動が、組合が敬遠される原因の1つだと感じられる。

中津北：選挙に向けてのとりくみや、県議を囲んでの学習会は、私たちの思いを直接伝えてくれるメリットがあるので、候補者も含め、直接顔を見て話す機会は大切だし必要だと思う。

討論の後、採決が行われ、第1号～第4号の議案は、全て賛成多数で承認されました。その後、第5号議案「当面のとりくみ」が提案され、今後の具体的なとりくみを確認しました。

なお、来賓として古賀ちかけ参議院議員を招いていましたが、国会日程の変更のため出席がかなわず、メッセージをいただきました。

最後に、大野委員長による団結がんばろうで締めくくりました。

